

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1193300058		
法人名	社会福祉法人一寿会		
事業所名	グループホーム ひがしまつやま寿苑		
所在地	埼玉県東松山市柏崎628-1		
自己評価作成日	令和6年10月28日	評価結果市町村受理日	令和7年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当苑は、側には畑や神社、交流のある幼稚園がありおちついた環境です。また、施設内はバリアフリーでエレベーターや機械浴槽を設けており、幅広い利用者様にご利用いただけるように整えています。
 コロナ感染症5類移行後、面会の再開、また積極的に今泉地区の夏祭り参加、夕涼み会の実施など小規模で、ご入居者ご家族様、地域の方々が触れ合える機会づくりを行っています。更には、学生ボランティアも受け入れており、開かれた、そして笑顔が見られる施設運営を常に目指しております。
 入居されている方一人一人の暮らしや生活リズムを大切にしたいケアを心掛け、その方の意思を尊重した支援を行うように努めています。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・コロナ前の取り組みに近づけるよう、地域との交流、季節のイベントなどが行われ、入居者には季節感を味わえる支援がなされている。子ども食堂や地域のボランティアの受け入れにも積極的に取り組まれ、歌手のコンサート、沖縄民謡など、地域と密着した様々な企画が取り入れられている。また、「事業所には馴染みを繋げる役割がある」との考えから、昔の仲間やデイサービスの時の友達とのつきあひも大切にされている。
 ・運営推進会議は、防災、レクリエーション、研修も含め、様々な議題を取り上げ質疑が行われている。会議時に防災訓練を実施したり、身体拘束や虐待の防止についての研修を行うなど、事業所運営との一体感が図られている。
 ・目標達成計画の達成状況についても、災害対策において、「いざというときに自分は何をするのか」を普段から意識することに取り組まれ、組織対応力の向上を目指し、継続的な研修での職員のレベルアップに取り組まれ、成果が見られることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念の実現に向けて会議等を通して、情報共有を行っています。	理念に基づき、家庭的で、その人らしい居心地の良い場所を提供する支援がなされている。職員が入居者にやさしく接することで、入居者個々の好きなこと、好きなものを大切に、喜びのある生活ができるようケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や各種会議などを通じて、地域住人との交流を行っています。また面会においても感染症の流行時期以外は積極的に行うようにしています。	人とのつながりが希薄化している中、ちょっとした繋がりやできる事を大切にされている。夕涼み会に地域の方が参加したり、地域の太鼓チームとの交流、祭りの手伝い、ボランティアの受け入れなど多岐に渡ってつきあいがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内で行われる外部講師を呼んでの研修等の勉強会にご家族や民生委員に参加していただいています。また、ご家族様の面会時に、認知症について丁寧に説明して理解していただくようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催する事ができ報告や取組を伝えることができました。	運営推進会議は、防災、レクリエーション、研修等、様々な議題を取り上げ質疑が行われている。地域の案件にも取り組まれ、自治会長からは地域交通安全への発言もあり、ドライブレコーダーの映像なども皆で共有されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や施設の勉強会や行事にも出席していただき、施設の取組を伝えるよう取り組んでいます。	ケアや介護保険対応で迷うことなどの相談がなされ、地域情報や災害対策での連携についてアドバイスをいただいている。また、地域の老人福祉協議会の作品展に参加するなど、入居者も含めた交流を図り、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して正しい知識を理解するようにしています。また委員会をとおして身体拘束をしないケアに取り組むようにしています。	身体拘束や虐待防止については、運営推進会議の参加者も参加して外部講師を招いて研修が行われている。また、不適切ケアの自己チェックにも取り組み、怒りや苛立ちの解消により、入居者対応の選択肢が増えるよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して正しい知識を理解するようにしています。また委員会を通して虐待をしないケアに取り組むようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して正しい知識を持つようになっています。利用者の状況において本人やキーパーソンの方と話し合いながら必要性を協議しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年の介護保険制度改正に伴い、全ての利用者の家族様に対し、説明を行い変更合意書を頂いています。また、普段のご家族様との連携により不安や疑問の解消に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今回のような外部評価の他、通常の面会時やご家族様との話し合いについても必ず疑問点や不安点を確認し、ご家族様と事業者と同じ方向を向いてのサービス提供に努めています。	入居者・家族からは「家族に会いたい」、「外出したり、外食はできないか」など面会に関する意見や要望が多く出されている。また、日々の様子が見たいとの要望に対しては、居室の写真を撮ってそれぞれの環境を知っていただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心に「なぜ？」とその理由を相互にチェックをしたり他に相談、検討するよう働きかけようになっています。	ヒアリングや事故報告について職員から意見を聴き、また、困っていることや業務への工夫なども聴き取られている。外国人職員の教育で悩む職員もいて、「配慮する力を養う」ことの大切さが職員間に認識されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所としての方向性を周知するとともに、外部での研修参加をおこなっていただきながら向上心をもって働けるよう取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には法人理念や運営方針を伝え、現場での同行研修を実施。新人職員の目線に立った介護技術研修を行っています。また、毎月の職員研修を実施し、各職員のスキルアップを図るようになっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、協議会などを通じた法人のスタッフとのつながりを大切にして情報共有できるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊張しないように、しっかりとアセスメントを行うようにしています。アセスメントを職員と共有して安心できる言葉がけ等をおこなうようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼していただけるよう距離感を大切にしながら対応するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、本人様のご要望やニーズを聞き出し、サービスに適しているかご家族様と共に検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれで、ADLが違うので、出来るだけの配慮の中で個別の対応を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションを密に図りつつ本人の気持ちを大切にするように連携しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた近隣のお友達が面会にきていただけのよう連絡調整しています。	近所に住んでいる方やデイサービスでの知り合いの方が遊びに来られるなど、馴染みの人との交流が図られている。地域での知り合いが多く、「事業所は馴染みを繋げる役目がある」と昔からのつきあいの継続への支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士での人間関係を出来るだけ把握し、一人一人が少しでも楽しみや満足感を得ながら過ごしていただけるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真や必要書類の問い合わせがあります。以前ご利用後の状況を知らせてくれるご家族様がいらっしゃいました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や話し合いの時に出来るだけ本人様、ご家族、事業者が同じ方向を向いて歩みを合わせていけるよう支援に努めています。	話すことと同時に非言語コミュニケーションも大切に、表情や仕草などから「何が望みか」を見つけるよう取り組まれている。入居者と外国人職員との関わりをケアの参考にしたり、24Hシートを活用しながら思いや意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク面談やその後のご家族様との話し合いの中において、ご本人様の希望を出来る範囲で把握していけるように努めています。例:ご家族様に本人が好きだったパスタや、ウナギを購入して頂き本人に提供しました。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの入力を定期的に行う中で、各職員と話し合ったり確認をしながら、ADL等の変化をチェックしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した計画になるように半年に一度の見直しを行っています。ご入居様の意向を伺うのはもちろん、ご家族様には来苑時や電話等で意向を伺い反映しています。	それぞれの援助方針が明確に記載され、具体的にわかりやすい言葉でのケアプランが作成されている。職員はケアプランをさらに細かく表現した介護計画書をもとにケアを実施し、評価、モニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動・様子を記録し、それを共有しカンファレンスを通して半年ごとに見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が回答できない場合においては、本人、ご家族様や職員と一緒にサービスを考えるよう心がけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんとの触れ合いや移動販売など利用を促し、豊かな暮らしができるように支援するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望を基に、協力病院と連携を行っています。また、事業所内の別部署の看護職と連携を密にし、必要な時に適切な看護が受けられる体制を確保しています。また、臨時に医師の指示を受けたい場合においても、電話連絡等を行い、柔軟に対応をしています。	日常的には協力病院との連携で健康管理が行われている。かかりつけ医や専門医への受診時は家族の同行が基本だが、事業所の看護師やケアマネジャーからの情報を基に医師との情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日頃より、介護職と看護職は常に連携しています。体調変化のみに限らず、身体状態変化からくる対応方法の再考なども看護職との連携で多職種連携の下、出来るだけ適切なケアを提供できるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、医療機関に情報提供し安心して治療が受けられるように支援しています。医療機関の相談員と電話やFAXまたは実調を行う事で、退院がスムーズにできるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「急変時や人生の最終段階における医療・ケアに関する意思確認書」を新たに作成。入居中のすべての利用者様のご家族に意向調査を行っています。その上で、「今の所で最期まで」と考えているご家族様については、条件などを説明の上、看取りの契約を進めるようにします。	家族に「どこまで医療が必要か」のアンケートを取り、段階ごとに話し合われている。重度化や終末期に際しては「自然の流れ」を重視し、看取りも含めた研修も行われ、さらに看取り後の職員に「心のケア」も看護師が中心となり実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを用意しており、適切な対応が取れるように定期的に確認しています。また、重大な緊急時には、看護職員や、ケアマネと連絡がとれる体制としています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の指導の下、定期的に夜間想定消防訓練を実施しています。運営推進会議にて事業継続計画等の報告を行う形にしています。	現状に即した災害対策が取られ、落雷による停電時の蓄電器の設置やバールライトの使用テストなども行われている。BCPを基に災害のシミュレーションも図られ、火災、地震、落雷など、それぞれに合わせた対策が取られている。	災害対策には十分取り組まれています。さらにBCPを基本に現場レベルで役割分担の意識付けを行い、取り組みへの習慣化と平準化を図る取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格や尊厳を損なわないよう、接遇についての研修を行い気を付けている。また、ユニット会議等で個々のケースに対する話し合いを行っています。	「プライバシーの確保＝ドアを閉める」を基本に、慣れによる自分中心の介護を戒められている。個々の習慣は24Hシートから知り、その人の生活ペースと体内時間を守り、一人ひとりの尊重に繋がられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関係構築を大事に行います。その中で「私は〇〇が好き(食べたい)」といった事等においては、ご家族様と話し合い、出来るだけ速やかに対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ご入居様のこだわりや大切にしていること、習慣についてできるだけ沿うように努めています。一日の時間の中で、多少なりとも楽しみを持っていただけるように、関係構築に努めています。退屈な時間とならないように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで日常で行っていたように、生活歴を参考にその方らしい清潔感や季節感ある身だしなみを支援しています。また、定期的に衣替えや理美容を利用頂き身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい食形態を栄養士・看護師・医師と相談しています。旬のメニューや配膳時間を季節によって変更するなど工夫しています。また、ご家族様のご協力の下、本人が好きな食品を別途買ってきていただき、当日の内に消費していただいています。例：ウナギ、パスタ等。	朝食時間を夏が早く、冬は遅くするなどの工夫が図られ、マイ箸、マイ茶碗を使用し、分量などもそれぞれに合わせて提供されている。旬のメニューも取り入れられ、毎月1日には赤飯を出すことで、月が変わったことを知らせられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄量・体重を把握し一人一人の状態に応じて支援しています。また、法人内の栄養士に相談し食事形態を変更するなど工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援の下、出来る範囲はご自身で行っていただいています。個別支援としては、介助や、歯ブラシが不適切な方においては、別途口腔スポンジや、その他の物品を代用して支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、一人一人の排泄パターンに沿った支援を行っています。例として、ご家族様の協力の下ポータブルトイレを持ち込んで頂いています。	基本的にはトイレでの排泄で、夜間も見守りながらトイレに行かれる入居者もおられる。羞恥心に配慮した声掛け、ドアの開閉、汚れた物の始末などに十分な気配りがなされ、プライバシーやプライドも守られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護職と情報を共有しながら、緩下剤を極力使用しないように、十分な水分補給と適切な運動等で便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械浴や一般浴で入浴を楽しめるよう支援しています。各利用者様にとって、入浴がストレスとならないように、普段のかかりから出来るだけ丁寧に関われるように支援に努めています。	入浴への誘いには様々な工夫が図られ、足浴などから始めて恐怖感を除き、無理なく安心して入浴いただくよう取り組まれている。可能な限り同性介助も実施され、また、機械浴を提供することで、安全に入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホームは自宅での生活を、そのまま施設内で行っていただく事を基軸の一つとしているので、基本的には利用者様の自由に生活していただけるよう支援に努めています。また、自宅で使用していた寝具でお休み頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職が中心となり服薬の支援をしている。かかりつけ医・看護師・薬局と連携し、病状の変化に留意している。必要に応じて、ご家族様にもご理解とご協力を頂き、外部の医療機関ともご家族様を介して、連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	春や秋においては出来るだけ苑内外の散歩や、移動販売等に出向き、楽しみを持っていただけるように支援に努めています。また、苑全体での行事においては、出来るだけ積極的に参加を促しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春や秋を中心に、施設の周りを散歩することで、季節感を感じたり気分転換を図っています。	日常的には、外に出て日光浴をしたり、東屋でお茶を飲んだり、体操をするなどの支援が行われている。屋外の音楽レクやお花見、買い物や移動販売の利用など、幅広いメニューが提供され、楽しんでいただいている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨期同様、ご入居者様は好きな物を購入する楽しみを持つため、継続して移動販売を再開しご利用いただけるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実例として、地方在住の妹様が、姉妹と亡くなったお母様と一緒に写っている写真と投稿した新聞記事を郵送されたことがあり、本人に写しを手渡ささせていただきました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、月ごとの行事を行うことで季節間を味わって頂いている。また、気候に合わせた衣類の選定。布団を干すなど寝具の手入れをするなど環境を整えています。	季節の飾りつけが行われ、会話のきっかけにしたり、家族と一緒に写真を撮るなど、共用空間の演出が施されている。入居者は共用部に集まることが多く、世間話をしたり、洗濯物をたたんだり、レクリエーションを楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、ソファやテレビ・本・雑誌・趣味の物があり、ご入居様が思い思いに過ごして頂けるような、空間づくりを心掛けています。また、お席の配置においても工夫を努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り家庭から持参してきていただいています。居室内においては転倒に気をつける配置にしながらも、本人が安心できるような環境を提供しています。	これまでの生活習慣を大切に、元駅員だった入居者は電車の写真や備品を飾られている。居室で読書を楽しまれる方もおられ、動線に合わせて家具やラックを固定するなど、安心して生活できる環境作りへの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人が季節を感じたり、月ごとの行事を行うことで季節感を味わって頂くようにしています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム ひがしまつやま寿苑

作成日: 令和 7年 2月 4日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	内部研修を行っているが、BCPに関して各職員が把握し、実際の災害発生時に行動に移せるか。 各職員一人一人が役割を理解しきれていない。	業務継続計画を基本として、実際の災害発生時に職員が自立して対応できる。	・内部研修、訓練を通して業務継続計画を浸透させる。 ・非常照明やバッテリー、発電機など、施設内にある防災器具を実際に使用できるようにする。 ・非常食や感染対策用品の備蓄場所の確認をし、実際に使用した訓練を実施する。 ・非常時の報告、連絡、相談の確認と周知。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。